

第三日

諮問案及議題

上

泰西名家幼稚園觀（三）

記者譯

—Will Levington Comfort.

すべての人々にとつて、幼稚園の實際を見て、考へる事は良い事だと思ふ。此處では子供達は多種多様に興味を起させるように計劃されてある事物の眞中に自由に於かれてゐる。室内にはどよめきがあるが、それは不調和な聲ではない。子供達は彼等自身である事を、そして彼等自身を發表する事を、獎勵されてゐる。決して隣人を防げないで、然し最も強くその心を惹く事物の中に、彼等自身を没入するやうに。蓋し、今日の米國に於ける最も偉大な教師の或者は幼稚園の教師である。

彼等は質に於て選ばれたといふのではない。彼等はをしへる事の眞實に觸れてゐるからである。さういふ小さい者に於

ても尙理智より深い應答のあることを彼等はみて來た。

若し、かの初學年に實行された大きな理想が、七年間つゞけらるるならば、かように導かれる人々は、こそつて、慾をすてた。平和なあかるい人生を得るに至るであらふ。彼等は世界を、より住みよい場所にして、次ぎの時代へ渡すであらふ。

—Nicholas Murray Butler.

教育過程の二極端、幼稚園と大學、とが個人主義の最も大なる二つの保管者であるといふ事は、凡ての教育に於て今日見出される處の、著しき事實であり、最も希望の多いきざしである。

我々の學校系脈に於ての、大なる望は、個人主義精神が、始めは幼稚園から、終りは大學まで動いて來てゐるといふ事實に於てである。然して他日この兩端からの運動傾向は會致して、彼等の勢力の中に、全教育過程を支ふるに至るであらふといふ事實に於てである。